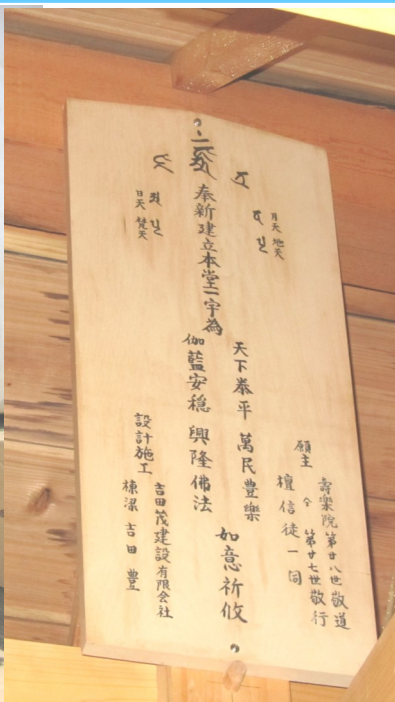
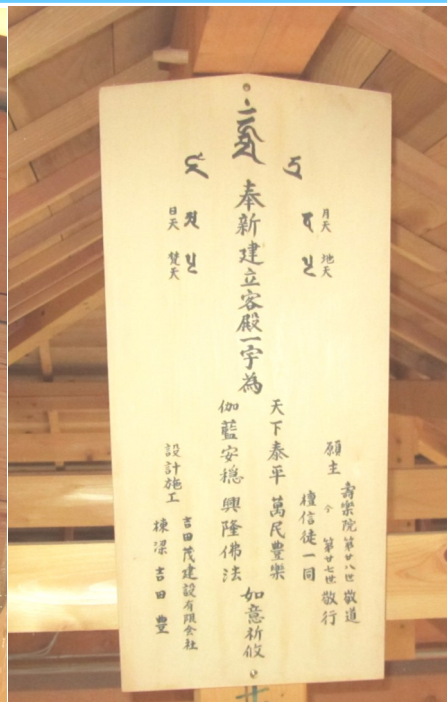




本堂屋根の鬼、大きさが分かります



本堂と客殿の棟札が設置されました。



本堂客殿建設進捗状況



向拝柱に獅子の彫刻取付中

壽楽院本堂、新築の内陣天井と内陣前欄間彫刻ですが、豪華さがうかがえる建設途中の作業現場です。

十三仏の事典

三回忌の阿弥陀如来

西方極楽浄土の教主である阿弥陀仏は、阿弥陀如来・弥陀仏の名でも親しまれ、阿弥陀くじとか、阿弥陀かぶり、といった言葉があることでも知られるように、日本では最も親しまれている仏の一人です。阿弥陀、というのは梵語で、意味は無量、ということであるが、何が無量かという点、光と、寿命、が無量なのである。したがって、意味をとって無量光仏とか無量寿仏ともよばれる。

光、というのは智慧の象徴であり、寿命、というのは慈悲の象徴であるというのが仏教の立場である。結局この阿弥陀仏というのは、限らない智慧と限らない慈悲をを持った仏ということになる。



業は取り除かれたのですが、それだけではまだ罪業は完全には取り除かれないのです。また、その罪業の深さにはわかりきれないものがあります。

人間の罪業は、とつても根深く、また絶えないものです。それは単に一人の罪業だけでなく、他のすべての罪業と根を一つにするものだからです。その根の広大さもまた無限なものなのです。この罪業の広大さと深さからは、なかなかぬけ出せないものです。人間の善心というものの限界という点でもあります。その罪の深さに人々はたじろぎ、恐ろしさを感じさせられることがあります。これまで以上の反省と懺悔を通して、信仰心はいっそう強まります。これまでの九人の仏さまの導きを生かしながら、信仰に徹するという一念に導かれていきます。亡き人は、極楽浄土に導かれて、阿弥陀さまのもとに生まれ、そのありがたさに感動することになります。観音さま・勢至さまに導かれて、阿弥陀さまのもとに生れることができましたのです。